

2017年11月20日

各 位

オリックス生命保険株式会社

平成 29 年度 IT 特別賞(IT 推進部門賞)を受賞

～11 期連続 2 桁成長のビジネスを支える IT 戦略～



オリックス生命保険株式会社（本社：東京都港区、社長：片岡 一則、以下「オリックス生命」）は、公益社団法人企業情報化協会（以下「IT 協会」）が主催する平成 29 年度「IT 賞」において、「IT 特別賞（IT 推進部門賞）」を受賞しましたのでお知らせします。

「IT 賞」は、“IT を高度に活用したビジネス革新”に顕著な努力を払い成果を挙げたと認めうる企業、団体、機関および個人に対して、IT 協会が授与するものです。そのなかでも「IT 特別賞」は、活動内容において、他社には無い際立った特徴や先駆的な技術を活用した成果に対し授与されるものです。

オリックス生命は、個人保険の保有契約件数が 11 期連続で 2 桁の伸び率となり、成長ビジネスを支える IT 戦略が求められていました。従来は成長に必要なシステム構築に時間がかかることやコストが問題となっていました。新しいシステム基盤技術であるハイパーコンバージドインフラストラクチャー（HCI）*を導入することにより、スモールスタートが可能な一方で拡張性もあり、コスト抑制も同時に実現することが出来ました。

具体的には、①スピードアップ（インフラ提供リードタイムを 3 か月⇒5 日に短縮）、②コスト抑制（構築費 2～3 割、保守・運用費 6～7 割それぞれ削減）、③運用負荷軽減（管理対象を 18 システム⇒1 リソースプールに軽減）を実現しました。これにより、今後お客さまに新しいサービスを迅速にご提供していくことができるようになります。

詳細な受賞理由は、別紙をご覧ください。

オリックス生命は、今後も先駆的な IT 技術を積極的に導入することでお客さまにより良いサービスをご提供し、多くのお客さまに選ばれる保険会社を目指してまいります。

【ご参考】

IT 協会ウェブサイト (<https://www.jiit.or.jp/information/detail/info35itaward.html>)

*ハイパーコンバージドインフラストラクチャー（HCI）・・・汎用的なサーバのコンピューティング機能とストレージ機能をソフトウェア技術により集約/統合した、シンプルかつ拡張性の高いインフラシステムです。

以 上

＜本件に関するお問い合わせ先＞
経営企画部広報チーム 狐塚・林 TEL：03-6685-7996

別紙

IT 特別賞 (IT 推進部門賞) 受賞理由 (IT 協会のコメント)

オリックス生命保険株式会社

「11 期連続 2 桁成長のビジネスを支える IT 戦略」

～柔軟性と拡張性を兼ね備えた Software-Defined Infrastructure を武器に

インフラのコントロールを取り戻す～

オリックス生命保険株式会社は 1991 年に設立、2006 年に医療保険キュア発売を皮切りに個人向け分野に本格参入し、商品ラインナップ拡充を進め、個人保険の保有契約件数は 11 期連続で 2 桁の伸び率となり、2017 年 4 月には 350 万件の規模となっている。このようなビジネスの成長機会を逃さず発展させるためには、将来のビジネスの方向性、技術動向を見据えた「IT 戦略」の策定が必須事項となっていた。

そこで 2012 年に策定した IT 戦略では、IT プラットフォームのレイヤー化への転換を目指すこととした。即ち、従来の個別システム開発によるサイロ型を脱却し、「IA Server」+「仮想化」によりインフラをアプリケーションから切り離し、サーバリソースのプール化とスケールアウト型への転換を目指すこととしたのである。当時のインフラ技術では、まだ実現が難しかった方向ではあったが、その後、2014 年頃より、ハイパーコンバージドインフラストラクチャー (HCI) と呼ばれる Software Defined な新しいシステム基盤技術が出現した。これは従来技術に比べて、スモールスタートが可能で拡張性もあり、コスト抑制も可能な、オリックス生命にとって最適なものと考えられた。

とはいえ、まだ実績も少ない技術であることから、オリックス生命では、スモールスタートによる評価と実績づくりを行い、自ら実証し納得することで導入拡大を図っていった。その結果、2016 年から 1 年半の間に新規構築システム、既存システムの老朽化更改など、18 業務システムに採用、いずれも問題なく安定運用を実現している。この IT インフラのレイヤー化とリソースプール化の展開・定着の過程は、技術的にも想定以上の効果を生み、

- ① スピード・アジリティ (インフラ提供リードタイム 3 か月⇒5 日)
- ② コスト抑制 (構築費 2～3 割、保守・運用費 6～7 割削減)
- ③ 運用負荷軽減・品質向上 (管理対象 18 システム⇒1 リソースプール)

などを実現することができた。

この事例は、HCI の適用に特化した事例であるが、急激なビジネスの拡大を支えるインフラ戦略の実現としては大変高度なものといえ、十分に IT 特別賞 (IT 推進部門賞) に値する取組として評価できるものである。